

障害の理解

問題 87 障害者の法的定義に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 身体障害者福祉法における身体障害者は、身体障害者手帳の交付を受けた18歳以上のものをいう。
- 2 知的障害者は、知的障害者福祉法に定義されている。
- 3 「精神保健福祉法」における精神障害者には、知的障害者が含まれていない。
- 4 障害者基本法において発達障害者は、精神障害者に含まれていない。
- 5 障害児は、障害者基本法に定義されている。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 88 半側空間無視に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 食事のとき、認識できない片側に食べ残しがみられる。
- 2 半盲に対するものと介護方法は同じである。
- 3 失行の1つである。
- 4 本人は半側空間無視に気づいている。
- 5 認識できない片側へ向かってまっすぐに歩ける。

問題 89 Dさん(35歳、男性)は重度の知的障害があり、地元の施設入所支援を利用している。Dさんの友人Eさんは、以前に同じ施設入所支援を利用していて、現在は共同生活援助(グループホーム)で暮らしている。Dさんは、共同生活援助(グループホーム)で生活するEさんの様子を見て、その生活に関心をもったようである。施設の職員は、Dさんの共同生活援助(グループホーム)での生活は、適切な援助を受けければ可能であると考えている。一方、Dさんの母親は、親亡き後の不安から施設入所支援を継続させたいと思っている。

介護福祉職が現時点で行うDさんへの意思決定支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 母親の意思を、本人に伝える。
- 2 共同生活援助(グループホーム)の生活について話し合う。
- 3 介護福祉職の考えを、本人に伝える。
- 4 具体的な選択肢を用意し、選んでもらう。
- 5 地域生活のリスクについて説明する。

問題 90 筋萎縮性側索硬化症(amyotrophic lateral sclerosis：ALS)では出現しにくい症状として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 四肢の運動障害
- 2 構音障害
- 3 嘔下障害えんげしうがい
- 4 感覚障害
- 5 呼吸障害

問題 91 Fさん(21歳、男性)は、交通事故による頸髄損傷(cervical cord injury)
で重度の四肢麻痺になった。最近はリハビリテーションに取り組まず、周囲の人には
感情をぶつけ強くあたるようになった。

介護福祉職の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 歩けるようになるために、諦めずに機能訓練をするように支援する。
- 2 トラブルが起きないように、Fさんには近寄らないようにする。
- 3 生活態度を改めるように、Fさんに厳しく注意する。
- 4 自分でできることに目を向けられるように、Fさんを支援する。
- 5 障害が重いので、Fさんのできることも手伝うようにする。

問題 92 Gさんはパーキンソン病(Parkinson disease)と診断され、薬物療法が開始されている。立位で重心が傾き、歩行中に停止することや向きを変えることが困難である。

Gさんのこの症状を表現するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 安静時振戦
- 2 筋固縮
- 3 無動
- 4 寡動
- 5 姿勢保持障害

問題 93 障害者への理解を深めるために有効なアセスメントツールの1つであるエコマップが表すものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 家族との関係
- 2 社会との相関関係
- 3 認知機能
- 4 機能の自立度
- 5 日常生活動作

問題 94 「障害者総合支援法」で定める協議会に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 当事者・家族以外の専門家で構成する。
- 2 療育手帳を交付する。
- 3 相談支援専門員を配置しなければならない。
- 4 国が設置する。
- 5 地域の実情に応じた支援体制の整備について協議を行う。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 95 障害者が障害福祉サービスを利用するため相談支援専門員が作成する計画として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域福祉計画
- 2 個別支援計画
- 3 サービス等利用計画
- 4 障害福祉計画
- 5 介護サービス計画

問題 96 Hさん(45歳、男性)は、脳梗塞(cerebral infarction)を発症して半年間入院した。退院してからは、障害者支援施設に入所して自立訓練を受けている。2か月ほど過ぎたが、右片麻痺と言語障害が残っている。妻のJさん(35歳)はパート勤務で、小学3年生の子どもがいて、将来が見えずに不安な気持ちである。

家族に対する介護福祉職の支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 家族の不安な気持ちに寄り添い、今の課題と一緒に整理し考えていく。
- 2 Jさんの気持ちを最優先して方向性を決める。
- 3 訓練の様子を伝えるために、頻繁にJさんに施設に来てもらう。
- 4 家族が困っているので専門職主導で方向性を決める。
- 5 レスパイトケアを勧める。